

近畿中央胸部疾患センターで結核治療を受けられた皆さまへ
『結核排菌遷延に関わる危険因子の抽出』研究の実施について

近畿中央胸部疾患センターでは排菌遷延にかかわる危険因子を明らかにするため、米国カリフォルニア大学ロスアンジェルス校と共同で下記に該当する方を対象に研究を行います。

調査の対象となる方

2005（平成17）年4月1日から2007（平成19）年3月31日までの期間に近畿中央胸部疾患センターで入院し治療を受けた結核患者さんを対象にします。

調査方法

上記入院期間に作成された診療録（カルテ）から年齢、性別、体格、血液検査、治療状況、結核菌の排菌状況等に関するデータについて、治療を難治化させる因子として結核発病にどのような要因が関わるか検討します。したがって本研究では、結核治療の際に必要な検査値の記録から研究に必要なデータを抽出するのみで、対象の患者さんから新たな検体の提出を求めたりすることはありません。さらに、臨床検査遺伝情報（DNA）を取り出したり保存したりする操作は行いません。

調査に当たって患者さんの負担と利益

この調査によって、患者さんにおかけする新たな負担はありません。また、患者さんにもたらされる直接の利益はありません。

個人情報の保護について

検討した結果は当センターでの診療に貢献するため、学会や専門誌を通じて発表いたしますが、患者さんが特定されるような形では発表いたしません。

この研究の医学的意義

隔離目的で入院診療を受けなければならない結核患者さんにとって、排菌陰転化時期を予測できる因子を割り出す本研究によって生活設計等に重要な情報を提供できるものと考えます。入院時におこなった検査値から治療に対する反応性が予測できれば、栄養療法に配慮することによって重症化を防げる可能性があると考えます。

ご不明な点がございましたら、以下に示す本調査の事務局までお問い合わせ下さい。

〒591-8555 堺市北区長曾根町1180
国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター
院長 林 清二
TEL 072-252-3021
FAX 072-251-1372

* この調査は病院外の専門家の方を含んだ臨床試験審査委員会における厳正な審査・承認を受けて実施しております。